
社 会 活 動

業績集 地域貢献諸活動

氏名：浅田 豊

実施年月：20121100

内容：浅田豊（社会貢献分野）：健康安全教育 分科会 コーディネーターとしての協議等のポイント（議論の進め方）等 原稿執筆「子どもの健やかな成長と食の安全」（テーマ）『24年度青森県PTA研究大会 むつ大会』（抄録冊子）43頁、事後記録（報告書）。

氏名：カヴァナ・バリー

実施年月：20120800

内容：野田村ボランティア
野田村サマースクール
英語授業（小中学生対象）

氏名：池田 礼美

実施年月：20120700

内容：あおもり思春期研究会 総会・市民公開講座

氏名：池田 礼美

実施年月：20121100

内容：母乳育児支援 東北教室

氏名：池田 礼美

実施年月：20130200

内容：あおもり思春期研究会 市民公開講座

氏名：井澤 弘美

実施年月：20120700

内容：野田村ボランティア活動に参加（1）

氏名：井澤 弘美

実施年月：20130200

内容：野田村ボランティア活動に参加（2）

氏名：井澤 弘美

実施年月：20130300

内容：技術士（農業部門 農芸化学）取得

氏名：岩井 邦久

実施年月：20120900

内容：産学連携
イノベーション・ジャパン 2012
出展（東京都）

氏名：岩井 邦久

実施年月：20121000

内容：企業支援
ガマズミ栄養健康教室（全3回）
企画・運営（三戸町，八戸市，十和田市）

氏名：岩井 邦久

実施年月：20130200

内容：産学連携
ものづくり産業技術フェア 2013in 八戸
出展（八戸市）

氏名：岩井 邦久

実施年月：20130200

内容：企業支援
第8回こだわり食品フェア
出展（東京都）

氏名：岩部 万衣子
実施年月：20120900
内容：〈事業名〉みんなでスポーツアップリートフェスタ
〈役割〉栄養学科ブース出展
〈主催〉青森県教育庁スポーツ健康課
〈開催場所〉マエダアリーナ
〈対象〉青森県民

氏名：岩部 万衣子
実施年月：20121000
内容：〈事業名〉サークル K サンクス商品共同開発
〈役割〉商品開発助言
〈主催〉サークル K サンクス（青森）・青森県立保健大学

氏名：瓜田 学
実施年月：20120600
内容：青森県立中央病院サポートグループ ボランティア

氏名：瓜田 学
実施年月：20120800
内容：ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊

氏名：加賀谷 真紀
実施年月：20120600
内容：社会福祉主事資格認定講習会講師 介護福祉論・分担・3時間（青森県立保健大学）

氏名：上泉 和子
実施年月：20120600
内容：青森県立保健大学セカンドレベル講師

氏名：上泉 和子
実施年月：20120700
内容：青森県看護協会ファーストレベル講師

氏名：神成 一哉
実施年月：20120800
内容：「ケア付きあおもりねぶた」に医療班（医師）として参加した。

氏名：神成 一哉
実施年月：20121000
内容：学祭において教員としてクラシックギター演奏を行った。

氏名：木村 恵美子
実施年月：20120800
内容：1.事業名：第 2 回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研協議会学術集会
2.役割：大会長
3.主催：国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研協議会
4.場所：青森県立保健大学
5.対象：医療従事者、一般市民

氏名：熊谷 貴子
実施年月：20120600
内容：平成 24 年度青森県立保健大学 公開講座

氏名：熊谷 貴子
実施年月：20121100
内容：産学官連携事業 サークル K サンクスコラボ弁当（2012 年 11 月～2013 年 3 月）

氏名：小池 祥太郎
実施年月：20120800
内容：第2回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャ
パン研究協議会
役割：事務局長

氏名：小池 祥太郎
実施年月：20120800
内容：ケア付きねぶた
役割：利用者の看護

氏名：小林 昭子
実施年月：20120800
内容：国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究
協議会第2回学術集会
担当：事務局
主催：国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究
協議会
開催場所：青森県立保健大学
対象：医療者、学生、一般

氏名：佐々木 雅史
実施年月：20120900
内容：事業名：青森県女性薬剤師会フィジカルアセ
スメント研修会 Part 2
役割：講師
開催場所：青森県立保健大学
対象：薬剤師

氏名：佐々木 雅史
実施年月：20121200
内容：事業名：急変時の対応とアセスメント研修
役割：企画立案・講師
主催：青森県立保健大学 地域連携・国際センター
開催場所：青森県立保健大学

氏名：佐々木 雅史
実施年月：20121200
内容：事業名：シミュレータを活用した看護教育シ
ステム設計：一歩進んだ患者急変対応スキルからの
新たな発見！OncologicEMERGENCYを中心に）
役割：講師
主催：青森県立保健大学 地域連携・国際センター
開催場所：青森県立保健大学

氏名：吹田 夕起子
実施年月：20120700
内容：＜事業名＞あおもり協立病院医療倫理委員会
（奇数月）
＜役割＞委員
＜主催＞あおもり協立病院
＜開催場所＞あおもり協立病院

氏名：吹田 夕起子
実施年月：20120900
内容：＜事業名＞24年度第1回添削指導員連絡会議
＜役割＞添削指導員（添削部数15）
＜主催＞八戸看護専門学校第2看護学科
＜開催場所＞ユートリー

氏名：吹田 夕起子
実施年月：20120900
内容：＜事業名＞世界アルツハイマーデー街頭活動
（チラシ配布）
＜役割＞ボランティア
＜主催＞認知症の人と家族の会青森県支部
＜場所＞イトーヨーカドー青森店
＜対象＞一般市民

氏名：吹田 夕起子

実施年月：20121000

内容：＜事業名＞第17回日本看護サミット青森'12

＜役割＞協力員

＜主催＞「第17回日本看護サミット青森'12」実行委員会、青森県、(社)青森県看護協会

＜開催場所＞リンクステーションホール青森(青森市文化会館)

＜対象＞全国看護職員

画・運営を担い、学生教育と社会貢献に努めた

氏名：千葉 敦子

実施年月：20121100

内容：鶴田町住民の健康増進を目指したイベント「いのちのまつり」に保健大学として出展し、大学のPRとともに、鶴田町民の健康づくりの貢献に努めた

氏名：吹田 夕起子

実施年月：20121100

内容：＜事業名＞第14回アルツハイマーフォーラムIN青森

＜役割＞アルツハイマーフォーラムIN青森世話人

＜主催＞アルツハイマーフォーラムIN青森・エーザイ株式会社・ファイザー株式会社

＜開催場所＞リンクステーションホール青森(青森市文化会館)

＜対象＞保健医療福祉従事者

氏名：千葉 敦子

実施年月：20130300

内容：青森県保健師自主学習会「STEP1」事務局として、年に1回の研修会を企画・運営し、県内保健師の卒後教育および現任者教育の貢献に努めた

氏名：千葉 たか子

実施年月：20120400

内容：＜事業名＞「あおもり地球市民講座」4月例会「ガンジー」からインドを学ぶ

＜役割＞主催者

＜主催＞「あおもりとベンガルをつなぐ会」

＜開催場所＞自由ヶ丘町民会館(青森市)

＜対象＞県民一般

氏名：千葉 敦子

実施年月：20120400

内容：青森県地域看護学実習調整会議事務局
4大学の地域看護学実習を調整する会議の企画・運営・事務作業を担い、県内の保健所および市町村が学生の実習を受けやすいように環境を整え、学生の効果的な実習につながるよう努力した。

氏名：千葉 敦子

実施年月：20120400

内容：介護予防「杖なし会」における活動
保健師として3か月に1回程度の体力測定、および在宅保健師の発掘と調整を担い、高齢者の介護予防の貢献に努めた

氏名：千葉 敦子

実施年月：20120800

内容：ケア付きねぶたじょっぱり隊の活動
プロジェクトの委員長として総括を行った。具体的にはボランティア養成講座2回の企画・運営、学生・教職員のボランティア活動支援、活動報告会の企

氏名：千葉 たか子

実施年月：20120500

内容：＜事業名＞「あおもり地球市民講座」5月例会「シーラさんの生涯」(インドの女性の物語)

＜役割＞主催者

＜主催＞「あおもりとベンガルをつなぐ会」

＜開催場所＞自由ヶ丘町民会館(青森市)

＜対象＞県民一般

氏名：千葉 たか子

実施年月：20120500

内容：〈事業名〉「世界の笑顔」プロジェクト、2012
年度第1回、

〈役割〉参加者

〈主催〉JICA

〈開催場所〉東京

〈対象〉国民一般

氏名：千葉 たか子

実施年月：20120800

内容：〈事業名〉『新町ふれあい広場』

〈役割〉委員

〈主催〉青森市商工会議所青年部、青森市

〈開催場所〉青森市新町通り

〈対象〉県民一般

氏名：千葉 たか子

実施年月：20120600

内容：〈事業名〉「あおもり地球市民講座」6月例会
「かの有名な「貿易ゲーム」

〈役割〉主催者

〈主催〉「あおもりとベンガルをつなぐ会」

〈開催場所〉自由ヶ丘町民会館（青森市）

〈対象〉県民一般

氏名：千葉 たか子

実施年月：20120800

内容：〈事業名〉ライトアップ日本 8.11 事業

〈役割〉実行委員

〈主催〉三陸とアジアをつなぐ協議会

〈開催場所〉岩手県九戸郡野田村

〈対象〉岩手県九戸郡野田村の村民

氏名：千葉 たか子

実施年月：20120700

内容：〈事業名〉「あおもり地球市民講座」7月例会
「異文化理解

「食べ物からみえる異文化 -韓国」

〈役割〉主催者

〈主催〉「あおもりとベンガルをつなぐ会」

〈開催場所〉自由ヶ丘町民会館（青森市）

〈対象〉県民一般

氏名：千葉 たか子

実施年月：20120900

内容：〈事業名〉「あおもり地球市民講座」9月例会
「異文化理解

「食べ物からみえる異文化 -ベトナム」

〈役割〉主催者

〈主催〉「あおもりとベンガルをつなぐ会」

〈開催場所〉自由ヶ丘町民会館（青森市）

〈対象〉県民一般

氏名：千葉 たか子

実施年月：20120800

内容：〈事業名〉異文化・他地域、歴史再発見交流事
業

〈役割〉実行委員

〈主催〉三陸とアジアをつなぐ協議会

〈開催場所〉岩手県と青森県

〈対象〉岩手県九戸郡野田村の村民

氏名：千葉 たか子

実施年月：20121000

内容：〈事業名〉『生涯学習フェア』

〈役割〉委員

〈主催〉青森県総合社会教育センター

〈開催場所〉青森県総合社会教育センター

〈対象〉県民一般

氏名：千葉 たか子
実施年月：20121100
内容：〈事業名〉「世界の笑顔」プロジェクト、2012年度第2回、
〈役割〉参加者
〈主催〉JICA
〈開催場所〉東京
〈対象〉国民一般

実施年月：20130100
内容：〈事業名〉『「知る」ことからはじめよう第2弾～心で感じる「地球のステージ」&「国際協力DAY」～』
〈役割〉委員
〈主催〉市民による国際協力実行委員会と青森県男女共同参画センター
〈開催場所〉青森県男女共同参画センター
〈対象〉県民一般

氏名：千葉 たか子
実施年月：20121100
内容：〈事業名〉農魚業交流、地場産品を使用したアジア料理交換会
〈役割〉実行委員
〈主催〉三陸とアジアをつなぐ協議会
〈開催場所〉岩手県九戸郡野田村
〈対象〉岩手県九戸郡野田村の村民

氏名：千葉 たか子
実施年月：20130100
内容：〈事業名〉「あおもり地球市民講座」1月例会「異文化理解（調理教室）「インドを体験する」
〈役割〉主催者
〈主催〉「あおもりとベンガルをつなぐ会」
〈開催場所〉自由ヶ丘町民会館（青森市）
〈対象〉県民一般

氏名：千葉 たか子
実施年月：20121200
内容：〈事業名〉「あおもり地球市民講座」12月例会「映画から南アフリカのアパルトヘイトを知る」
〈役割〉主催者
〈主催〉「あおもりとベンガルをつなぐ会」
〈開催場所〉自由ヶ丘町民会館（青森市）
〈対象〉県民一般

氏名：千葉 たか子
実施年月：20130200
内容：〈事業名〉「あおもり地球市民講座」2月例会「インド映画「水」から学ぶインド（女性、寡婦、差別）」
〈役割〉主催者
〈主催〉「あおもりとベンガルをつなぐ会」
〈開催場所〉自由ヶ丘町民会館（青森市）
〈対象〉県民一般

氏名：千葉 たか子
実施年月：20130100
内容：〈事業名〉野田村温泉ツアー
〈役割〉実行委員
〈主催〉三陸とアジアをつなぐ協議会
〈開催場所〉青森県十和田市
〈対象〉岩手県九戸郡野田村の村民

氏名：千葉 たか子
実施年月：20130300
内容：〈事業名〉「あおもり地球市民講座」3月例会「韓国映画「ウリハッキョ（私たちの学校）」から学ぶ朝鮮半島の国々
〈役割〉主催者
〈主催〉「あおもりとベンガルをつなぐ会」
〈開催場所〉自由ヶ丘町民会館（青森市）
〈対象〉県民一般

氏名：千葉 たか子

氏名：伝法谷 明子
実施年月：20120600
内容：青森県立中央病院サポートグループ ボランティア

助成事業「第3回下北はつらつ家族研修会」
＜役割＞企画・運営・会計
＜開催時期＞H24年11月
＜開催場所＞むつ市
＜対象＞一般住民、保健医療福祉専門職

氏名：伝法谷 明子
実施年月：20121000
内容：＜事業名＞第17回日本看護サミット青森'12
＜役割＞協力員
＜主催＞「第17回日本看護サミット青森'12」実行委員会、青森県、(社)青森県看護協会
＜開催場所＞リンクステーションホール青森(青森市文化会館)
＜対象＞全国看護職員

氏名：内城 絵美
実施年月：20120700
内容：第12回青森県小児糖尿病サマーキャンプボランティア

氏名：内城 絵美
実施年月：20120800
内容：特別支援学校における医療的ケア一般研修(演習)講師

氏名：戸沼 由紀
実施年月：20120700
内容：＜事業名＞H24年度青森県立保健大学研修科助成事業「第1回下北はつらつ家族研修会」
＜役割＞企画・運営・会計
＜開催時期＞H24年7月
＜開催場所＞むつ市
＜対象＞一般住民、保健医療福祉専門職

氏名：内城 絵美
実施年月：20120800
内容：野田村被災地支援ボランティア(サマースクール)

氏名：内城 絵美
実施年月：20130100
内容：野田村被災地支援ボランティア(ウィンタースクール)

氏名：戸沼 由紀
実施年月：20120900
内容：＜事業名＞H24年度青森県立保健大学研修科助成事業「第2回下北はつらつ家族研修会」
＜役割＞企画・運営・会計
＜開催時期＞H24年9月
＜開催場所＞大間町
＜対象＞一般住民、保健医療福祉専門職

氏名：鳴井 ひろみ
実施年月：20120600
内容：2012年6月2日・9日・16日・23日・30日計5回

＜事業名＞サポートプログラム
＜役割＞ファシリテーター
＜主催＞青森県立中央病院がん診療センター
＜開催場所＞青森県立中央病院
＜対象＞外来がん化学療法を受けている患者

氏名：戸沼 由紀
実施年月：20121100
内容：＜事業名＞H24年度青森県立保健大学研修科

氏名：鳴井 ひろみ
実施年月：20120600
内容：第 32 回日本看護科学学会学術集会査読担当

氏名：鳴井 ひろみ
実施年月：20120800
内容：茨城キリスト教大学看護学部紀要投稿論文査読担当

氏名：沼田 祐子
実施年月：20120800
内容：青森県立保健大学地域連携・国際センター地域連携科主催 ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊に参加

氏名：福島 真人
実施年月：20120400
内容：・青森県理学療法士会学術局学術誌編集部部长
・大学同窓会学年幹事

氏名：福島 真人
実施年月：20121100
内容：＜事業名＞第 30 回東北理学療法学術大会
＜役割＞準備委員
＜主催＞日本理学療法士協会東北ブロック協議会
＜開催場所＞リンクステーションホール青森

氏名：福島 真人
実施年月：20121200
内容：＜事業名＞平成 24 年度理学療法学科卒業生研修
＜役割＞企画者
＜主催＞青森県立保健大学
＜開催場所＞青森県立保健大学 B 棟 1 階

＜対象＞理学療法学科卒業生

氏名：藤田 智香子
実施年月：20121100
内容：弘前大学ボランティアセンター主催の岩手県野田村支援・交流活動に参加

氏名：細川 満子
実施年月：20120500
内容：＜事業名＞平成 24 年度青森県立保健大学研修科助成事業「第 1 回下北家族はつらつ研修会」
＜役割＞研修総括・企画・運営
＜主催＞青森県立保健大学
＜開催場所＞むつ市
＜対象＞保健医療福祉専門職・住民

氏名：細川 満子
実施年月：20120600
内容：＜事業名＞平成 24 年度青森県難病等団体連絡協議会評議員総会
＜役割＞助言者
＜主催＞青森県難病等団体連絡協議会
＜開催場所＞青森市
＜対象＞保健医療福祉専門職・住民

氏名：細川 満子
実施年月：20120900
内容：＜事業名＞平成 24 年度青森県立保健大学研修科助成事業「第 2 回下北家族はつらつ研修会」
＜役割＞研修総括・企画・運営
＜主催＞青森県立保健大学・大間町地域包括支援センターくろまつ
＜開催場所＞大間町
＜対象＞保健医療福祉専門職・住民

氏名：細川 満子
実施年月：20120900
内容：〈事業名〉豊かなスポーツライフ推進事業「みんなでスポーツ・アップリートフェスタ」
〈役割〉体験・展示コーナー企画・運営
〈主催〉青森県教育委員会
〈開催場所〉青森市
〈対象〉県民

氏名：細川 満子
実施年月：20121000
内容：〈事業名〉日本ヒューマンケア科学 第5回学会学術集会
〈役割〉企画委員
〈主催〉日本ヒューマンケア科学学会
〈開催場所〉青森県立保健大学

氏名：細川 満子
実施年月：20121100
内容：〈事業名〉平成24年度 青森県難病団体等連絡協議会 連絡調整会議第1回分科会
〈役割〉助言者
〈主催〉青森県難病団体等連絡協議会
〈開催場所〉青森市

氏名：細川 満子
実施年月：20130300
内容：〈事業名〉平成24年度青森県立保健大学研修科助成事業「第3回下北家族はつらつ研修会」
〈役割〉研修総括・企画・運営
〈主催〉青森県立保健大学
〈開催場所〉むつ市
〈対象〉保健医療福祉専門職・住民

氏名：本間 ともみ
実施年月：20120400

内容：ケア付きねぶたプロジェクト プロジェクト委員

氏名：本間 ともみ
実施年月：20120400
内容：青森県看護協会東西支部 幹事（連絡員）

氏名：本間 ともみ
実施年月：20120600
内容：青森県立中央病院サポートプログラム ボランティア

氏名：宗村 弥生
実施年月：20120800
内容：青森県 特別支援学校における医療的ケア研修 講師

氏名：宗村 弥生
実施年月：20120900
内容：青森県社会福祉施設看護職員研修 講師

氏名：村上 眞須美
実施年月：20120600
内容：認定看護管理者教育課程セカンドレベル専任教員

氏名：村上 眞須美
実施年月：20121000
内容：青森県看護サミット運営ボランティア

氏名：村上 眞須美
実施年月：20121200
内容：日本医療・病院管理学会 第310回例会「被災経験から学ぶ病院の備え」担当
開催場所：アスパ

氏名：村上 眞須美

実施年月：20121200

内容：【事業名】研修企画助成事業

「青森県認定看護管理者ブラッシュアップ研修」

【役割】 企画・運営

【開催場所】青森県立保健大学

【対象】青森県内の認定看護管理者

氏名：盛田 寛明

実施年月：20120510

内容：<事業名> 共同研究：青森県の地域リハビリテーション促進に向けた研究：サービスを提供する組織および保健・医療・福祉実務者における地域リハビリテーション阻害要因の究明（平成 24 年度）

20120510

<役割> 研究代表（共同研究：医療法人芙蓉会，六ヶ所村，横浜町）（平成 24 年 4 月から同年 5 月）

<開催場所> 青森県内地域リハビリテーション提供施設

<対象> 青森県内地域リハビリテーション提供実務者

氏名：盛田 寛明

実施年月：20120717

内容：<事業名> リハビリテーション資源の乏しい地域における訪問指導・訪問在宅リハビリテーション・健康教育相談支援活動（横浜町保健事業）

20120717

<役割> 理学療法士による訪問指導・訪問在宅リハビリテーション・健康教育相談実施・支援・指導

<主催> 横浜町

<開催場所> 横浜町内高齢者・障害者宅，保健福祉施設，および横浜町役場

<対象> 横浜町在住高齢者・障害者・家族介護者および同町保健・医療・福祉専門職

氏名：盛田 寛明

実施年月：20120904

内容：<事業名> リハビリテーション資源の乏しい地域における訪問指導・訪問在宅リハビリテーション・健康教育相談支援活動（横浜町保健事業）

20120904

<役割> 理学療法士による訪問指導・訪問在宅リハビリテーション・健康教育相談実施・支援・指導

<主催> 横浜町

<開催場所> 横浜町内高齢者・障害者宅，保健福祉施設，および横浜町役場

<対象> 横浜町在住高齢者・障害者・家族介護者および同町保健・医療・福祉専門職

氏名：盛田 寛明

実施年月：20130215

内容：<事業名> リハビリテーション資源の乏しい地域における訪問指導・訪問在宅リハビリテーション・健康教育相談支援活動（横浜町保健事業）

20130215

<役割> 理学療法士による訪問指導・訪問在宅リハビリテーション・健康教育相談実施・支援・指導

<主催> 横浜町

<開催場所> 横浜町内高齢者・障害者宅，保健福祉施設，および横浜町役場

<対象> 横浜町在住高齢者・障害者・家族介護者および同町保健・医療・福祉専門職

氏名：盛田 寛明

実施年月：20130314

内容：<事業名> リハビリテーション資源の乏しい地域における訪問指導・訪問在宅リハビリテーション・健康教育相談支援活動（横浜町保健事業）

20130314

<役割> 理学療法士による訪問指導・訪問在宅リハビリテーション・健康教育相談実施・支援・指導

<主催> 横浜町

<開催場所> 横浜町内高齢者・障害者宅，保健福祉施設，および横浜町役場

<対象> 横浜町在住高齢者・障害者・家族介護者および同町保健・医療・福祉専門職

氏名：吉岡 美子

実施年月：20120600

内容：岩手県栄養士会生涯学習科目企画

氏名：吉岡 美子

実施年月：20121000

内容：岩手県栄養士会生涯学習シンポジウム
「被災地支援を考える」企画・運営

氏名：渡邊 洋一

実施年月：20130100

内容： コミュニティワーク実践研究紀要第6号の
原稿募集

発刊 特定非営利法人地域福祉研究室 **pipi**

発行責任者 青森県立保健大学教授 渡邊洋一

地域連携・国際センター一年報

平成 24 年度地域連携・国際センターの主な事業報告

1. 地域連携国際センタープロジェクト関連事業

(1) 看護専門職員研修

【救急看護認定看護師教育課程】

救急看護認定看護師制度は 1996 年に発足し、1997 年に救急看護認定看護師が誕生している。本教育課程は 2005 年に教育機関として認定を受け、2012 年までの 8 年間で 72 名の修了生を輩出した。

1) 概要

開講期間は 6 月 4 日（月）～12 月 7 日（金）までの 6 ヶ月間であった。受講者は 5 名（定員 10 名）であり、全国から参集した。

2) 内容

科目と時間は日本看護協会の基準カリキュラムを基に作成した。

(1) 共通科目 120 時間

共通科目はリーダーシップ、情報処理など、すべての認定分野で必要とされる事項について受講する。2012 年度は本教育課程の他に「がん化学療法看護認定看護師教育課程」も開講し、合同講義として行われた。グループワークでは 2 課程の受講者で活発な意見交換が行われた。

(2) 専門基礎科目 120 時間

専門基礎科目は 1) ヘルスアセスメントとケア、2) リスクマネジメント、3) 救急技術の理論と実践の 3 科目から構成される。ヘルスアセスメントとケアではフィジカルアセスメントについて学習した後、小児、妊産婦、高齢者のそれぞれ発達段階に応じたアセスメントについて学んだ。また、リスクマネジメントではミスの起きやすい救急医療の場で、安全な医療、看護を提供するために認定看護師としてどのような行動をとるべきかについて学習を深めた。

(3) 専門科目 180 時間

専門科目は 1) 救急看護概論、2) 救急看護技術、3) 病態とケア、4) 救命技術指導、5) 災害急性期看護の 5 科目から構成される。救急看護技術では早期のリハビリテーションを行う意義や実際の手技を学んだ。また、救命技術指導ではグループに分かれ、ディスカッションを行いながら指導案、教材の作成に遅くまで残って取り組む姿が見られた。

(4) 演習及び臨地実習 255 時間

2012 年度の臨地実習は青森市、八戸市の 2 施設で行った。これまでの講義、演習での学びを統合しつつ、各施設ですでに活躍している認定看護師の姿を見ながら、将来の自分自身の認定看護師像をつくりあげていた。

その後の事例検討会、ケースレポートでは、臨地実習で得た学びを他者へ伝える過程を通じて救急看護に対する考えを深めることができた。

【がん化学療法看護認定看護師教育課程】

認定看護師制度は1996年に発足し、がん化学療法看護認定看護師は2000年10月に日本看護協会神戸研修センターで誕生した。本教育課程は2009年度に教育機関として認定を受けた。

1) 概要

開講期間は6月4日(月)～12月7日(金)までの6ヵ月間であった。受講者は13名(定員20名)であり、青森県内のみならず県外からも受講した。

2) 内容

科目と時間は日本看護協会の基準カリキュラムを基に作成した。

(1)共通科目 120時間

共通科目はリーダーシップ、情報処理など、すべての認定分野で必要とされる事項について受講する。2012年度は「救急看護認定看護師教育課程」との合同講義として行われた。グループワークでは2課程の受講者で活発な意見交換が行われた。

(2)専門基礎科目 120時間

専門基礎科目は1)がん看護学総論、2)症状マネジメント論、3)腫瘍学概論、4)がん化学療法概論、5)臨床薬理の知識と活用方法、6)臨床試験と治験コーディネーター、7)がんの医療サービスと社会的支援の7科目から構成される。

(3)専門科目 150時間

専門科目は1)がん化学療法患者・家族のアセスメント、2)主要ながん化学療法薬レジメンとその看護、3)がん化学療法薬の投与管理とリスクマネジメント、4)がん化学療法に伴う身体の変化と症状緩和技術、5)がん化学療法患者へのセルフケア支援、6)がん化学療法に伴う患者・家族の意思決定を伝える看護援助、7)外来/在宅がん化学療法と看護援助の7科目から構成される。

(4)演習及び臨地実習 240時間

学内演習60時間、臨地実習Ⅰ45時間、臨地実習Ⅱ135時間で構成される。臨地実習Ⅰは受講生の所属する施設で行うこととなっており、自施設におけるがん治療に関するチーム医療の活動と実際について把握し、課題を明確にすることを主な内容としている。臨地実習Ⅱについては、2012年度は青森市、八戸市、岩手県、東京都、埼玉県、神奈川県6施設で行った。臨地実習Ⅱにおいては、これまで学習した知識と技術を統合し、認定看護師の役割である「実践」、「指導」、「相談」について展開することを目標としている。

【認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）】

1. セカンドレベル実施概要

平成 24 年度は、セカンドレベルの教育課程を開講した。

- 1) 日程：第 1 クール 平成 24 年 6 月 14 日（木）～6 月 29 日（金）
第 2 クール 平成 24 年 7 月 13 日（火）～8 月 1 日（水）
第 3 クール 平成 24 年 8 月 20 日（月）～8 月 31 日（金）

- 2) 受講生：33 名（修了生 32 名）

看護部長等 2 名、副看護部長等 5 名、看護師長等 26 名

- 3) 内容：

- ・カリキュラムは、「医療経済論」、「看護組織論」、「人的資源活用論」、「情報テクノロジー」の 4 つの教科目からなり、講義と演習で構成している。時間数は規定の 180 時間のほかに、オリエンテーション、プレゼンテーション等 12 時間を加え、計 192 時間であった。
- ・講師は、県内外の専門分野の教育・研究・実践者が担当し、学内教員の協力も得た。
- ・学習方法は、成人学習者として主体的に展開することを目指し、講義、演習、ディベート、プレゼンテーションにより構成した。
- ・演習、課題レポートのテーマは「現在の職場の管理上の課題、もしくはセカンドレベル教育課程における自分の学習の課題」とし、教育課程での学びと実践を統合できるよう支援した。

2. セカンドレベルフォローアップ研修

- 1) 目的：自らが立案した組織の改善計画の実施を推進するとともに、セカンドレベル修了生の看護管理実践能力の向上を目的とする。
- 2) 内容：セカンドレベル研修終了後の実践状況報告およびコンサルテーション
- 3) 開催日：平成 25 年 2 月 23 日（土）
- 4) 場所：青森県立保健大学 C 棟 2 階 N 講義室 1
- 5) 参加者：平成 24 年度セカンドレベル修了生 26 名、演習支援者 9 名、県内の認定看護管理者 11 名 計 46 名

Ⅱ 研修科事業報告

・平成24年度の研修科事業の概要

(1) 第12回ケアマネジメント・フォーラムIN青森

1. 企画の背景

このフォーラムは、平成13年11月に青森県下北地域の関係者を本学に招き「ケアマネジメント・フォーラムIN下北」と題して行ったことが始まりである。本学開設当初のカリキュラム作成段階で当時の介護保険制度の施行も睨み、ケアマネジメントを1つの柱とし、学科合同の「ケアマネジメント論」「同演習」を4年間の集大成として位置付けた経緯があり、僻地といわれる下北地方の専門職と共同で地域のケアマネジメントのあり方を検討し、それを教育に生かす活動を展開し、その区切りにおいてフォーラムが開催された。第2回からは全県的に呼び掛ける目的で、テーマを設定し、現在の名称を用い毎年保健医療、社会福祉、介護の参加者を得て盛会に開催している。

2. 研修目的

医療機関と介護施設・在宅および地域包括支援センター等、地域ケアと行政との関わりを探る。

3. 研修受講者

保健医療福祉専門職：93名

4. 開催日時および場所

平成24年11月28日(水) 13:00～16:00

青森県立保健大学 N講義室2

5. 研修内容

「虐待防止と意志決定支援 ～障害者虐待防止法施行を受けて～」

昨年成立した障害者虐待防止法が、今年10月1日から施行された。これで、児童・高齢・障害者虐待と関連法が揃ったことになる。これからその法活用に向けて、各方面で実践が積み重ねられるものと思われる。言うまでもなく、虐待に関しては起きてしまったからの対応に終始するのではなく、虐待そのものの防止をはかることが重要だと言える。そこで、今回の本フォーラムでは、虐待を防止し、保健医療福祉サービスの利用者の意志決定支援を如何に進めていくか、現場の声を交えて具体的に考える機会とする。

1) 基調講演：講師：白梅学園大学 子ども学部教授 堀江 まゆみ

(NPO法人 PandA-J 代表)

2) ディスカッション

6. 研修の成果および評価

研修会終了後、アンケート調査を実施した。参加者93名のうち、85名(回収率91%)から回答をいただいた(詳細はアンケート結果参照)。研修の満足度は、「満足した」40%、「概ね満足した」48%であった。今後の職務に「大いに役に立つ」60%、「少しは役に立つ」30%で、研修会の評価は概ね良好であった。理由としては、「研修内容が実務に結び付いていた」、「最新の知識

研究内容だった」との評価が多数を占め、充実した研修会になったと言える。

検討すべき意見として、「もう少し時間が欲しかった」、「ディスカッションを設けるのであれば、座席の検討をお願いします。」など、時間的な問題や研修会場についての指摘が見られた。

7. 反省点（次年度への改善点など）

受講者数は、前年度よりも30名ほど多く、テーマへの関心の高さが伺える。講義内容が事例や講師の体験談を踏まえたものだったため、「とても分かりやすい」という声が多数あった。

一方で、時間的な問題の指摘があったため、時間配分や、会場の形状については、次年度に向け検討していくべきである。また、アンケート結果に基づき、受講者の要望に応えるべく、シンポジウムの内容、運営方法等を十分に考慮し、今後もより良い研修会の開催に向けて検討していく。

（2）卒業生を対象とした研修会

本年度は、各学科で企画し、実施された。事業は以下のとおりである。

<看護学科>

1. テーマ：「臨床・地域でつかえる家族看護実践セミナー」
2. 日時：平成25年2月17日（日）13:00～16:00
3. 場所：C棟2階N講義室1
4. 講師：中村由美子（本学看護学科教授）
5. 参加者：

<理学療法学科>

1. テーマ：「脊椎脊髄疾患の理学療法」
2. 日時：平成24年12月1日（土）13:00～15:30
3. 場所：B棟B109教室
4. 講師：樋口大輔（榛名荘病院リハビリテーション部）
5. 参加者：理学療法学科卒業生13名、学生18名

<社会福祉学科>

1. テーマ：「流動的状況下の現場より－求められる知識、技術・技能－」
2. 日時：平成25年3月2日（土）14:00～16:00
3. 場所：C棟2階N講義室1
4. 講師：葛西孝幸（ときわ会病院）、川村文絵（介護老人保健施設とわだ）、高橋亜希子（特別養護老人ホーム修光園）、宇佐美大輔（中泊町地域包括支援センター）
5. 参加者：社会福祉学科卒業生16名、学生5名、教員2名

<栄養学科>

1. テーマ：「社会人としてのコミュニケーションとマナー」、「国際協力において管理栄養士ができること」、「管理栄養士の職場を考える」
2. 日時：平成24年12月15日（土）14:30～17:00
3. 場所：青森市文化観光施設ワ・ラッセ
4. 講師：川内規会（本学看護学科講師）、草間かおる（本学栄養学科准教授）
5. 参加者：栄養学科卒業生13名、教員11名

(3) 研修企画・実施助成事業

県内の保健医療福祉専門職を対象とした研修企画を募集し、助成を行った。採択された研修企画については事業実績報告書参照のこと。

(4) 教育改善研究助成

本学の教育方法等の改善に資するための研究課題を募集し、助成を行った。採択された研修企画については事業実績報告書参照のこと。

(5) ブックレット作成事業

本学教員の研究成果を県民に還元することを目的として、継続的な小冊子の発行を募集したが、今年度の応募はなかった。ただし、2年度かけて作成に取り組んできた「テーマ型ブックレット」（自分を創るーより良い青年期を送るためにー）が完成し、大学主催のイベントにおいて配布する。

理学療法学生における「統合と解釈」の臨床思考過程を 高める演習と教材の開発

岩月 宏泰¹⁾，藤田 智香子¹⁾，工藤真大²⁾

1) 公立大学法人青森県立保健大学

2) 特別養護老人ホーム寿幸園

1. 研究の背景

理学療法学生に世界保健機関が 2001 年 5 月に採択した「ICF」概念に基づく障害の捉え方について教授しているが、これまで生活体験が限られた学生に対象者の背景や生活機能をイメージ化させることは困難であった。

2. 研究目的

本研究の目的は、理学療法学生に習得させる必要がある臨床思考過程のうち「統合と解釈」段階について、ICF 関連図の作成を学ばせる学内演習とそこで使用する教材の開発であった。

3. 研究成果

研究対象者は本学科学生 2 年生 34 名及び 3 年生 32 名であった。

本研究の対象者における講義及びグループワークを主とした演習後の感想についての調査結果は 2・3 年生の双方ともおおむね好評であった。本研究で実施した ICF の講義・演習は実践的に ICF 概念を習得できる内容・方法であったと考えられる。また、KJ 法を用いたグループワークは自分が理解している ICF の各要因の知識を見直す機会でもあり、模擬患者とはいえ具体的なイメージを掴む好機になったとも考えられる。

今回、全ての対象者は本研究に協力的であり、課題に対して意欲的に取り組んでいた。しかし、作成された ICF 関連図から、3 年生が整形外科疾患でも中枢神経疾患でも模範例に近い内容であったが、活動・参加についての解釈が不十分であった。3 年生にはこれらの要因間の複合的な関係について、再度確認する必要性を認めた。一方、2 年生では全般的に領域外や不適切表現が目立ち、ICF 概念の各要因について未だ具体的な内容を把握できなかったとも考えられる。そのため、2 年生向けに疾患別理学療法を復習させる、ICF 概念の説明方法や模擬症例の修正など、工夫することが必要と考えられる。また、演習に当たっては学生からの質問時間を増やす、質問しやすい雰囲気作りなども対応策として考えられる。何れにしろ、2 年生に対しては 3 年前期の臨床評価実習前に本研究の教材を用いた再トレーニングの必要性を認めた。

最後に、2・3 年生の講義・演習についての感想の調査結果から、ICF 学習内容・方法について、貴重な意見や要望などを得たので、今後課題内容や説明方法・資料などについて再検討し、より実践的で有用な授業が展開できるよう改善を図りたいと考えている。

4. 研究成果の公表および活用

研究成果については、平成 25 年度に理学療法関連学会での発表後、論文での公表を考えている。また、本研究で作成した教材及び演習は 3 年前期の臨床評価実習における学内トレーニングに用いたいと考えている。

人間総合科学科目「社会生活と法」の教材・資料集の編集・作成

大竹 昭裕¹⁾

1) 青森県立保健大学健康科学部社会福祉学科

1. 研究の背景

教養科目としての「法学」の教材には、法に関する横断的な基礎知識を提供する法学入門型の教材、総論から各論へと縦割りの展開する法学概論型の教材があり、既に枚挙にいとまがないほど刊行されている。しかし、法学入門型教材は、法学部学生など法学を専攻しようとする者に早い段階で基礎知識を定着させる効果が期待できるが、法学を専門としない学生にとっては無味乾燥なものとなりかねない。また、法学概論型教材は、法学の幅広い領域を提示して興味を喚起できる可能性を持つが、同時に各領域についての単なる断片的知識の寄せ集めに終わりがちな面もある。法学を専門とするわけではない本学学生に相応しい「法学」教材が必要と考えられる。

2. 研究目的

法学を専門としない学生を対象に教養科目として「法学」を開講するのは、法学知識の単なる詰め込みを目的としているわけではない。むしろ、日常的に直面する多様な問題に対処するための「法的なものの考え方」を身につけさせることにその意義があるというべきであろう。そのためには、法学入門型教材・法学概論型教材よりも、具体的な事例を素材として提供する資料集型の教材がより相応しいと思われる。筆者は、平成 19 年度の教育改善研究助成費を得て、上述の観点に立って『「法律と生活」学習資料』を作成・刊行した。しかし、この間、注目すべき多くの判例が登場しまた現実に裁判員制度が施行されるなど、「法」をめぐる環境も大きく変動している。5 年前に刊行した前著をそのまま使用し続けることはできない状況にある。以上のような状況を踏まえ、前著収録判例・資料等の全面的な見直しを進め、現行カリキュラム「社会生活と法」に相応しい教材・資料集を編集・作成しようとするものである。

3. 研究成果

限られた授業時間数の中で消化できる分量を考慮して全体を 12 章に構成し、そこには具体的な事例に触れさせるために現実の事件に関する判例を収録することとした。学生に理解可能なように事件の概要を整理し、裁判所の判断は、結論のみではなく、そこに至る論理過程が分かるように判決文を抜粋して収録することとし、さらに、各種統計資料や学生に対して行ったアンケート結果などその他の資料も収録することとした。以上の方針に基づき作業を進め、平成 24 年 10 月 24 日付で『「社会生活と法」学習資料』を刊行した。

4. 研究成果の公表および活用

完成した『「社会生活と法」学習資料』は、平成 24 年度後期の人間総合科学科目「社会生活と法」から 2 年度間使用する。平成 22・23 年度の受講者数をもとに 150 部作製したが、平成 24 年度の受講者数が当初見込みより多く、平成 25 年度使用の際に不足する可能性が生じたため、30 部増刷した。今後、収録判例・資料等の見直しを進め、「法的なものの方見方」を身につけさせるのにより相応しい教材の開発に繋げていきたい。

学生のコミュニケーション能力向上を目指したコーチングの教授方法と

内容の検討～理学療法領域における入門編と臨床応用編の開発～

藤田智香子¹⁾、岩月宏泰¹⁾

1) 青森県立保健大学理学療法学科

1. 研究の背景

我々は理学療法学科学生のコミュニケーション能力を向上させる手法としてコーチングに注目し、昨年度の本学研修科教育改善研究「学生のコミュニケーション能力向上におけるコーチングの活用」において、模擬授業を通じてメディカルサポート・コーチングの効用と学習方法・内容を検討した。その結果、コミュニケーション能力向上にメディカルサポート・コーチングの学習は有用であると考えられ、教授内容・方法も概ね好評であった。但し、上記研究では理学療法の臨床場面を想定して実施したが、3年生にはやや物足りない部分があり、理学療法の臨床イメージが乏しい1年生にはやや難しい部分もあり、改善が必要と考えられた。

2. 研究目的

本研究の目的は、理学療法学科学生のコミュニケーション能力向上を目指し、各学年の進捗状況に応じて開発したメディカルサポート・コーチングに関する1年生を対象とした入門編と臨床実習前の3年生を対象とした臨床応用編の授業内容と教授方法の妥当性および効用を検証することである。

3. 研究成果

【方法】本学掲示板にポスターを掲示して研究協力者を公募し、本研究への参加に同意した本学理学療法学科1年生14名を対象とした(3年生は応募者がいなかった)。コミュニケーションに関する事前調査として、コミュニケーションスキル尺度、特性自己効力感尺度、対人的志向性尺度からなる調査用紙を用いた。事前調査後にメディカルサポート・コーチングを学習する模擬授業(1コマ)を行い、小単元毎に基本知識の講義、事例の視聴、二人一組でのロールプレイを実施した。模擬授業後に学習内容・方法に関する事後調査を行った。

【結果・考察】事前調査結果から、対象者は他者を受け入れる姿勢を既に備えており、対人関係に敏感で他者の行動の変化に関心を寄せる傾向が強い反面、他者への意思の伝達や感情の表出に苦手意識があると推察され、コミュニケーションにやや不安があつて本研究に協力したのではないかと考えられる。

模擬授業での演習における学生同士の他者評価は、「80～100%できていた」と「60～79%できていた」を併せて92.9～100%で非常に高かった。自己評価は「80～100%できていた」が他者評価の半分程で、「60～79%できていた」を併せて他者評価と同程度だった。自己評価は低くなりがちであり、演習は総じてよくできていたと考えられる。また、ロールプレイを臨床場面の設定から学生生活に変更したためやりやすくなり、高評価になったと考えられる。

学習内容に関する事後調査では、『役に立つ内容か』と『実践可能な内容か』の回答が「そう思う」と「まあそう思う」を併せて100%(昨年度100%)で、普段の生活や仕事など様々な場面で役立つ内容であり、今後実践できそうな内容と認識されたと考えられる。『疑問な所があったか』の回答は、「そう思わない」と「あまりそう思わない」が併せて71.4%(昨年度40%)で大幅に向上した。スライド(資料)や説明の修正およびロールプレイの役割設定や課題内容の変更が適正だったと考えられる。『むずかしい内容か』は、「あまりそう思わない」と「そう思わない」が併せて50.0%、「まあそう思う」と「そう思う」が併せて35.7%で昨年度同様にばらつきがあった。

学習方法に関して、『わかりやすく学習できたか』は無回答以外「そう思う」と「まあそう思う」の肯定的な回答(昨年度 100%)だった。理由として映像によるわかりやすさ(8件)、演習(2件)、説明のわかりやすさ(2件)などが挙げられた。『ロールプレイはやりにくかったか』は、「あまりそう思わない」と「そう思わない」が併せて 71.4%(昨年度 60%)で多かった。理由として、取り組みやすい設定や事例の提示などが挙げられた。『実践に結びつく学習方法だったか』に対しては、「そう思う」と「まあそう思う」を併せて 92.9%(昨年度 100%)で、理由としてロールプレイの有用性や医療現場の事例提示などが挙げられており、実際的な内容に沿った体験型がよかったと考えられる。『改善してほしい所があるか』は、「そう思わない」と「まあそう思わない」が併せて 78.6%(昨年度 60%)で多かった。

4. 研究成果の公表および活用

成果の公表：25年度の青森県保健医療福祉研究発表会および理学療法関連の学会で発表予定。

成果の活用：本学理学療法学科 3年次地域理学療法学の「対人援助技術の習得」、1年次臨床基礎実習の事前学習「対象者との接し方・コミュニケーション」でコーチングを採り入れて授業予定

下北家族はつらつ研修会

細川満子¹⁾、山本春江¹⁾、工藤奈織美¹⁾、戸沼由紀¹⁾、岡田康平¹⁾、
納谷むつみ²⁾、富田恵³⁾、北嶋涼一⁴⁾

1) 青森県立保健大学、2) 地域包括支援センターくろまつ、
3) 弘前医療福祉大学、4) 弘前愛成会病院

1. 企画の背景

平成 19 年度より下北地域において、「むつ家族介護者の集い（はつらつの会）」を立ち上げ活動してきた。はつらつの会では、毎回、地元の訪問看護師、社会福祉士、保健師等の保健医療福祉専門職から介護に関する情報提供をしてもらうとともに、参加者との意見交換に加わってもらうことで専門職自身が介護の現状について理解を深める機会を設けている。その中で、参加者のニーズとして介護に関わる専門職との交流の推進、介護者家族に対するケアの充実が示され、本研修会を開催した。

2. 研修目的

下北地域の高齢者・障がい者が安定した在宅生活を支援するために、保健医療福祉専門職の資質向上を目指すことを目的とする。また、介護者および地域住民の交流をはかるとともに介護に関するニーズや情報を得る機会とする。

3. 研修受講者

職種：下北地域において高齢者および障がい者に関わる保健医療福祉専門職および地域住民

受講者数：修了者数 70 人（のべ参加者数 70 人）

4. 開催日時および場所

- 1) 第 1 回：平成 24 年 7 月 28 日（土）13：00～16：00 むつ来さまい館（むつ市）
- 2) 第 2 回：平成 24 年 9 月 25 日（火）14：00～17：00 北通り総合文化センターウイング（大間町）
- 3) 第 3 回：平成 25 年 3 月 7 日（木）9：00～16：00 まさかりプラザ（むつ市）

5. 研修内容

第 1 回研修会では、山本春江教授による「下北における在宅療養者と家族のこれまでとこれから」という講演、地域住民の立花洋子氏の介護体験談の発表後、介護家族にどのような支援ができるのかについて専門職と地域住民にとともに意見交換を行った。

第 2 回研修会では、工藤奈織美講師による「家族支援の基本」について講義、研修会代表者がファシリテーターとなり「アクションリサーチを活用してこれからの家族支援について考える」というテーマでグループワークを行った。

第 3 回研修会では、弘前愛成会病院認知症疾患医療センター 北嶋涼一氏による「認知症のケアに関する最近の情報および取り組み」について講演、弘前医療福祉大学 富田恵氏がファシリテーターとなりテーマ「地域で暮らす認知症の人への支援をいかにするか」についてグループワークを行った。

6. 研修の成果および評価

今回開催した研修会において、保健医療福祉の様々な分野で活動している専門職に参加してもらい、介護に関する新たな情報を提供することができた。また他職種の実態と各専門職が抱えている課題についてお互いが共通認識を持つ機会にもなった。さらには、家族介護者の思いについて直接触れることを通して、専門職としてどのような支援が必要とされているのかあらためて考える契機となったという意見や継続的な研修会の開催の要望も多く出され意義のある研修会であった。

青森県認定看護管理者ブラッシュアップ研修

企画提案・実施者 村上眞須美¹⁾ 青森県立保健大学

1. 企画の背景

青森県立保健大学 地域連携・国際センターでは、認定看護管理者教育課程セカンドレベル・サードレベルの教育課程を開講し、認定看護管理者の育成を行っている。しかし、認定看護管理者の資格取得後に、認定看護管理者が看護管理能力のブラッシュアップを図るための研修は青森県内では開講されていなかった。現在看護職は、夜勤を含む交代制勤務により、厳しい労働環境に置かれているものも多く、健康で安心して働ける環境の整備に向けて「雇用の質」を高めていくことは喫緊の課題である。そこで、看護管理者としてマネジメントする上で重要な共通の課題について学ぶ機会を作り、認定看護管理者が情報交換できる研修会を開催する必要があると考え企画した。

2. 研修目的

青森県内の認定看護管理者の看護管理実践能力のブラッシュアップを目指す

3. 研修受講者

職種：看護職（認定看護管理者） 受講者数：23人

4. 開催日時および場所

日時：平成 24 年 12 月 9 日（日）10：00～17：00 場所：青森県立保健大学 N 講義室 1

5. 研修内容

《講義》

- ・労働環境改善のための認定看護管理者の役割：青森県立保健大学 助教 村上眞須美
- ・看護職の労働環境の現状と課題：日本看護協会 常任理事 小川忍
- ・労務管理の視点から労働環境を分析する：三友堂病院財務部人事企画部部长 田林善則

《演習》

研修生を 4 グループに分け講義の内容をもとに現状分析を行い、労働条件・労働環境改善計画についてディスカッションし発表した。学内教員がファシリテーターとして支援した。

6. 研修の成果および評価

青森県内の認定看護管理者 28 名中、23 名の参加があった。終了後のアンケート結果から、参加理由は、「興味のあるテーマ」25%、「県内で初めての認定看護管理者を対象にした研修だから」55%であった。テーマについては、参加者の 90%が「タイムリーな良いテーマだった」と回答した。内容については、今後の実践に活用するヒントを得ることができたという回答が多く、目的を達成できるものであったと考える。本学での開催については、近い場所で参加しやすい、今後も継続して欲しいというコメントが多かった。看護管理者の水準を維持・向上するためには、資格取得後も学び続けること、お互いに切磋琢磨していくことが必要である。この研修会は、対象者のニーズを満たす研修会であり、地域医療への貢献につながったと考える。

7. その他（改善検討事項、特記事項など）

演習時間を増やしてほしい、遠方からの参加者から終了時間を早くしてほしいとの声があった。プログラム、スケジュールについて検討の余地があると思われる。

シミュレーターを使用した急変時の対応とアセスメント研修

(介護老人保健施設 看護職対象)

佐々木雅史¹⁾，織井優貴子¹⁾，佐藤千雪²⁾

1) 法人青森県立保健大学，2) 青森県立保健大学大学院，3) 八戸赤十字病院

1. 企画の背景

介護老人保健施設は、医師は夜間および休日は不在となる場合が多く、その間の利用者の身体状態が変化した場合、医師へ報告を行うか否かも含めたアセスメントも看護職者が行っている。また、心肺機能停止の一次的救命処置については、技術と知識の再認識のために、2年ごとの受講がすすめられており、さらに2010年にガイドラインの変更が行われた。新しいガイドラインに基づいた処置を習得することは、介護老人保健施設の利用者の生命を守り、機能の回復にも寄与するものと考えて研修を企画した。

2. 研究目的

本研修は、青森県内の介護老人保健施設に勤務する看護職者（常勤・非常勤は問わない）を対象として、一次救命処置の修得とアセスメント能力の向上をめざすことを目的とした。

3. 研究受講者

受講者は青森県内の介護老人保健施設に勤務する看護師または准看護師 20名である。20名全員が修了した。

4. 開催日時および場所

開催日時は平成24年12月15日（土曜日）、10時から16時までであった。研修会場は青森県立保健大学の教室、および基礎・成人看護実習室であった。

5. 研修内容

午前の2時間で、一次救命処置に関する講義と、簡易トレーニングキット（ミニアン）を使用して演習を行い、さらに実技評価を行った。午後の3時間で、急変時のアセスメントに関する講義を行った。その後、本学で所有しているシミュレーター（SimMan, ALSシミュレーター， ナーシングアン）を用い、シナリオを中心とした演習を行った。講師は一次救命処置の指導に関する資格を有する者2名、および救命看護認定看護師1名が務めた。

6. 研修の成果および評価

一時救命処置に関しては、講義と30分程度の演習で全員が実技評価に合格した。一次救命処置については、反復練習が学習効果をあげることから、研修後約3ヶ月間、トレーニングキットを貸し出すこととした。また、終了後に行った受講者へのアンケート（回収率90%）結果では、全員が「今後の仕事に役立ちそう」と回答した。満足度を聞いたところ、平均は96.4%であった。自由記述では、「今後も研修を継続してほしい」との意見があった。

7. その他

今後、同様の研修を行うのであれば、参加しやすい環境をつくるという観点から開催時期を早め、夏から秋に実施することが必要である。（企画提案者：佐々木記載）

シミュレータを活用した看護教育システム設計：一歩進んだ患者急変 対応スキルからの新たな発見！（Oncologic・EMERGENCYを中心に）

企画提案・実施者 織井優貴子¹⁾，藤田あけみ、佐々木雅史²⁾

1) 青森県立保健大学大学院健康科学研究科，2) 青森県立保健大学健康科学部

1. 企画の背景

本企画は、平成 21 年度に看護師、看護教員を対象として実施した「シミュレーション看護教育（患者急変対応）」を基盤とした継続的研修企画である。今回は、Part2 として実施した「がん化学療法を受けている患者の急変対応コース（入門編）」を、「基礎編」として発展させた研修会である。近年、複雑化・多様化する化学療法を安全に確実に実施できることが求められているが、化学療法を実施する看護師を対象としたオンコロジックエマージェンシーに対する教育を受ける機会が少ない。

2. 研修目的

- 1) 外来がん化学療法を受けている患者の急変対応に必要な環境を検討する。
- 2) 外来がん化学療法を受けている患者の急変対応に必要なチーム医療体制を考える。
- 3) 外来がん化学療法を受けている患者の急変対応を高性能シミュレータを用いて実践し、チーム医療として考えることができる。

3. 研究受講者

職種：看護師 受講者数：修了者数 31 人（のべ参加者数 人）

4. 開催日時および場所

開催場所：青森県立保健大学 A 棟 4 階看護学科研修室、カウンセリング実習室

開催時期：12 月 8 日（第 1 回目）、3 月 2 日（第 2 回目）

開催回数等： 2 回 ※この研修は 2 回にわたって実施

5. 研修内容

12 月 8 日：講義：第 1 回「オンコロジックエマージェンシー：事例検討」

（織井優貴子、山下まゆみ（助言者））

演習：事例に基づいた患者急変対応シナリオ作成の方法（織井、藤田、佐々木）

3 月 2 日：講義・演習「オンコロジックエマージェンシーへの対応」

シナリオ作成の方法と演習（グループワーク）：（織井優貴子、藤田あけみ）

演習：シミュレータを用いた演習：（織井、藤田）

6. 研修の成果および評価

- ・参加者の背景を明確にし、少人数のグループワークを中心とし、参加型研修の効果が得られた。
- ・今回は基礎編のシナリオを作成した。アドバンストのシナリオを作成し、急変対応できるように継続して年 2 回程度セミナーを企画してほしいという意見があった。

7. その他（改善検討事項、特記事項など）

- ・青森県内以外の参加者枠も設けてほしいという要望があった。

「自分を創る」～より良い青年期を送るために～

作成者：中村由美子、大井けい子、岩月宏泰、西村愛、吉岡美子、浅田豊

1) 青森県立保健大学

1. 要旨

本学では、思春期にある高校生や、高校生を育てている保護者・教師等に、より良い青年期を送るための資料として「自分を創る」を発行した。

青年期と呼ばれるこの時期に、成長していく「こころと体」を理解し、正しい知識を得ることで、青年期の自分とうまく付き合うことができる。自立に向けて、健康について理解し、日常生活を支えるための「こころと体を育てる」「身体をつくる」「共に生きる」ことを学ぶことから、自分自身を大切にする内容になっている。

ブックレットは、本学教員が自分の専門知識を生かして執筆している。思春期・青年期の子もたちが主体的に生きる力を育むための一助となるよう支援している。

2. 冊子の体裁

A4 全75ページ カラー版

3. ブックレットの内容

第1部 こころと体を育てる

第1章 心の発達と豊かな体験

第2章 なりたい自分になる

第3章 自分を理解するために

第2部 身体をつくる

第4章 食の自立について

第5章 青年期の身体特性と運動

第3部 共に生きる

第6章 自立について語り合おう

Ⅲ 国際科事業報告

平成24年度韓国仁済(インジェ)大学校との日韓国際交流報告

1. 仁済大学校物理治療学科から本学へ

(1) 来学者：物理治療科3年生4名

鄭 銀圭 (ジョン ウンギユ) 男性 吳 美英 (オ ミヨン) 女性
俞 知秀 (ユ ジス) 女性 金 淵慶 (キン ヨンキョン) 女性
*引率教員：7/12(月)～7/15(木) 金 美賢 (キム ミヒュン) 女性

(2) 研修概要

期間：平成24年7月11日(水)～8月8日(水)の約4週間

日程：7/11(水)～7/20(金) オリエンテーション、病院・施設見学および学内で授業参加

7/23(火)～8/1(金) 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターで研修

8/6(月) 修了式 8/8(水) 帰国

宿泊：本学ドミトリー

(3) 次年度の検討事項

- ・インジェ大学校学生のけが等に対する治療：次年度以降必ず保険に入ってくるように要望する。
- ・ドミトリーへの要望：調理器具、シャワーのタイムテーブル、キッチン・トイレ・ランドリーなどに関する使用方法(日本語・英語・韓国語)を掲示等して注意を促す。
- ・通訳に対するオリエンテーションの実施：服装・マナー、専門用語の事前学習(用語集の配布)。
- ・弘前脳卒中・リハビリテーションセンターでの研修日程：少し長かった(のべ9日間、実質8日間)。次年度は7月中旬～下旬の水・木・金/月・火・水の6日間で検討予定。

2. 本学理学療法学科から仁済大学校へ

(1) 訪韓者：理学療法学科3年生2名、4年生1名、計3名

3年：石川 絵麻 (いしかわ えま)、奈良 早紀子 (なら さきこ) 4年：佐藤 玉貴 (さとう たまき)

*引率教員：往路8/31(金)～9/5(水) 福島助教、李講師 復路9/12(水)～9/16(日) 李講師

(2) 研修概要

期間：平成24年8/31(金)～9/16(日)の約2週間

日程：8/31(金) 青森→ソウル泊 9/1(土) ソウル→釜山へ 9/3(月) インジェ大学校見学等

9/4(火)～9/6(木) 附属白(パク)病院での研修

9/7(金)～9/12(水) インジェ大学校で授業参加&学生と交流

9/13(木) 釜山→ソウルへ移動 9/14(金) ソウル市内で身障者センター見学等

9/15(土) ソウル市内見学 9/16(日) ソウル→青森へ

宿泊：8/31(金)～9/12(木)：仁済大学校ドミトリー

9/13(金)～9/15(土)：ソウル市内ホテル

(3) 本学学生の感想

- ・パク病院では大変親切に見学・実習させてもらい、とても勉強になった。もう少し長くてもよい。
- ・インジェ大学校の教員・学生にも大変よくしてもらい、楽しく充実した2週間で過ごせた。
- ・ソウルの障害者支援センターでは珍しい設備を見ることができて、とてもよかった。

(4) 次年度の検討事項

- ・往路のソウル宿泊は、釜山への国内線乗継ぎ(タイムテーブル)次第で不要かもしれない。

(担当者：理学療法学科 藤田智香子)

講演会

1. テーマ：APN（高度実践看護師）について；米国と日本の状況からの学びと将来への提言

講師：サミュエルメリット大学看護学部 教授 パメラ・ミナクリ氏

平成24年6月28日に青森県立保健大学A棟4階学科研究室において評価・改善委員会と共催で講演会を開催した。看護学科教員が参加し、米国におけるAPNの発展の経過から、日本の看護の現状に合わせてどのように応用していくかについて考える機会となった。（担当者：大崎瑞恵）

2. テーマ：仁濟（インジェ）大学校における国際交流

講師：仁濟（インジェ）大学校医生命工学大学物理治療科 教授 金美賢（キムミヒョン）氏



平成24年7月12日に青森県立保健大学B棟B109において、講演会を開催した。理学療法学科の学生・教員を中心に、数多くの方が参加した。インジェ大学校における国際交流の状況や、物理治療科学士の卒業後の進路等について講演があり、国内完結型の日本の学生には、韓国学生の積極的に世界へ目を向ける意識の違いが刺激になったと思われる。（担当者：長門五城）

3. テーマ：「国際協力の経験がもたらした新たな自分と未来」

講師：青森県立保健大学栄養学科 准教授 草間かおる氏

平成24年12月19日に青森県立保健大学コミュニティホールにおいて開催した。草間かおる先生は青年海外協力隊として活動した経験があり、その後も財団法人国際開発救援財団のカンボジアにおける病院給食支援プロジェクトに携わるなど、現在も活躍中である。そのため、講演会前から活動団体の写真パネルを管理棟1階に掲示した。当日、学生は栄養学科を中心に60名ほど、教職員は20名ほどが参加した。海外の食文化を体験してもらうためのフルーツチップやチェーなども提供し、リラックスした雰囲気での講演会となった。講演内容は写真を用いながら具体的な活動内容とともに、海外で専門職として活動した先輩としてのメッセージなど草間先生の熱意が込められており、参加者の国際協力の理解や興味関心を高める講演会となった。アンケートの結果でも全員が参加してよかったと回答しており、海外で専門職として活動することへの理解、興味、関心が深まったなどの声があり、たいへん好評であった。

（担当者：大崎瑞恵）



国際協力市民公開講座

1. 写真展

日時：平成24年10月6日（土）、7日（日）10:00～16:00

場所：B棟B113教室

内容：アフリカ大陸の国家であるガーナ、スーダン等の環境や生活、文化を中心に紹介。一部に現地（ガーナ、スーダン）での青年海外協力隊の活動も紹介。

展示物：写真50枚、アフリカの民芸品、JICAプロジェクト資料、JICA広報資料

来場人数：10月6日…186名以上、7日…147名以上 合計333名以上

来場者が集中する時間帯があり、来場者全員をカウントすることはできなかった。

来場者の約7割が一般の方であり、また、女性の来場者が全体の7割を占めた。

《意見等》

- ・子どもたちの目が綺麗
- ・外国に興味があった
- ・写真が本当に素晴らしく心が洗われます
- ・途上国の生活が理解できた
- ・子どもたちの笑顔であれば見ている私も楽しい
- ・日本は平和で良かったです
- ・日本が豊かか考えさせられる
- ・子どもたちに写真を見せたい
- ・笑顔が多く素敵でした
- ・世界に関心が持てました
- ・協力隊は耳にするが実際の活動が見られて良かった
- ・大人と子供の関係が豊かなのがわかった
- ・室内の独特な香りは民芸品？異国にきた感じでした
- ・民芸品が綺麗でよかった
- ・もう少し広い場所で見られたらよかったかな
- ・写真の点数が一番最高だった
- ・ビデオ等があればきっと良かった

2. 講演会

日時：平成24年10月7日（日）14:30～15:30

場所：B棟B201会議室

講師：岩岡 未佳 さん（JICAボランティア 管理栄養士）

演題：『アフリカ大陸 ガーナ、スーダンにおける活動等について』

参加者：20名 参加者のうち希望される方へ、ガーナのスパイシースープを提供した。

参加された方からは、

“テレビなどではうかがい知ることができない内容を知ることができて良い機会となりました。” “知識だけではなく積極性が大切だとわかった。”

“せっかくなので校門、正面あたりでもPRされれば良いと思った。”等の意見を頂いた。講演の内容については、ほぼ全員から好評を頂いた。

※写真展と講演会の入場者でアンケート回答者にボールペン、クリアファイルを提供した。（大学グッズ）

（担当者：長門五城）

